

MIYUJI
KANEKO

金子三勇士 ピアノ・リサイタル

©Seiichi Saito

2025年11月16日(日)

開演▶14:00 (開場▶13:30)

会場

文翔館 議場ホール

【チケット取扱】

文翔館・辻楽器店・富岡本店・八文字屋本店POOL・ローソンチケット
【Lコード:21879】・チケットぴあ【Pコード:306-737】・e+

- 主催／公益財団法人山形県生涯学習文化財団
- お問合せ／文翔館 TEL:023-635-5500

※本公演の開催について変更が生じる場合には、文翔館HPに掲載いたします。
また、開催変更の場合を除き、いかなる場合もチケットの払い戻しは行いません。



文翔館HPはこちら

Miyuji Kaneko Piano Concert

Artist Miyuji Kaneko Date Sunday, November 16th, 2025 Time Open 13:30 / Start 14:00

Venue Assembly hall of Bunshōkan Program Revolutionary Etude and others

Contact 3-4-51 Hātogo-machi, Yamagata-shi 023-635-5500 Day care center Free / Reservation required

入場料 全席自由

一般:3,500円／【当日券】4,000円
高校生以下:1,600円／【当日券】1,900円

※当日券は残席がある場合のみ販売します。
※床が平面のため、お席によっては舞台が見づらい場合がございます。予めご了承ください。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。予約制臨時託児所を設置します。
(無料／要予約／1歳以上の未就学児対象)

【託児所申込締切】11月9日(日)

プログラム

ショパン:革命のエチュード
ショパン:夜想曲「遺作」
ショパン:仔犬のワルツ
リスト:コンソレーション第3番
リスト:愛の夢
リスト:ラ・カンパネラ
シューマン=リスト:献呈
ベートーヴェン=リスト=金子三勇士:
交響曲第9番より第4楽章〜フロイデ!〜特別編

※曲目・曲順は予告なく変更になる場合がございます。

金子三勇士 Miyuji Kaneko [Piano]

1989年、日本人の父とハンガリー人の母のもとに生まれる。

6歳より単身ハンガリーに留学。祖父母の家よりバルトク音楽小学校に通い、ハンガリーのピアノ教育第一人者チェ・ナジュ・タマーシュネーに師事。11歳より飛び級でハンガリー国立リスト音楽院大学(特別才能育成コース)に入学、エックハルト・ガーボル、ケヴェルハージ・ジュンジ、ワグナー・リタの各氏に師事。16歳で全課程取得とともに日本に帰国。東京音楽大学付属高等学校に編入、清水和音、迫昭嘉、三浦捷子の各氏に師事。同大学を首席で卒業、同大学院修了。

2008年バルトク国際ピアノコンクール優勝の他、数々の国際コンクールで優勝。

2009年CHANEL Pygmalion Days参加アーティスト。

第12回ホテルオークラ音楽賞、第22回出光音楽賞など、受賞多数。

これまでにゾルタン・コチシュ、小林研一郎、汐澤安彦、秋山和慶、広上淳一、山田和樹、原田慶太楼、鈴木優人、シルヴァン・カンブルラン、ジョナサン・ノット、ジョン・アクセルロッド、コヴァーチ・ヤーノシュ、オンドレイ・レナルト、アラン・プリバエフなど、国内外の名だ

たる指揮者と共演。オーケストラではハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、ロ

ンドン・フィルハーモニー管弦楽団、NHK交響楽団、MAVブダベスト交響楽団、ブラハ交響楽団、シンフォニア・ヴァルソヴィア、アスタナ・オペラ管弦楽団、TOYOTAマスター・プレイヤーズ・ウーン、読売日本交響楽団、東京交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、他と共演。これまでハンガリー、アメリカ、フランス、ドイツ、オーストリア、スイス、ギリシャ、ルーマニア、チェコ、ポーランド、カザフスタン、ロシア、中国、ベトナム、マレーシア、タイ、シンガポール、インドネシアなどで演奏活動を行なう。

近年はライフワークの一環としてアウトリーチ活動も積極的に行い、コロナ禍ではオンラインを活用したさまざまな企画を発信。2019年公開の映画『蜜蜂と遠雷』にて主人公の一人「マサル」のピアノ演奏を担当。NHK-FM「リサイタル・パッショ」に司会者としてレギュラー出演の他、テレビ、ラジオなど多数のメディアに出演。

2021年に日本デビュー10周年を迎え、2022年3月にサントリーホールでソロ・リサイタル「原点×挑戦」を開催。同年、ドイツ・グラモフォンより新譜CD「フロイデ」もリリースした。

2024年4月に発足した「日本＝ハンガリー未来プロジェクト」のエグゼクティブプロデューサーに就任、国家間の文化交流に精力的に取り組んでいる。

キシュマロシュ名誉市民。スタインウェイ・アーティスト。



©Seiichi Saito

国指定重要文化財 山形県旧県庁舎および県会議事堂

山形県郷土館「文翔館」

文翔館は創建から100年を超える歴史を持つ、山形県旧県庁舎及び県会議事堂です。大正初期の煉瓦造公共建築として数少ない遺構で意匠的にもすぐれ、県庁舎と議事堂及びそれらを繋ぐ渡り廊下が一休となって保存されていることなどから、国の重要文化財に指定されました。また、文翔館のシンボルともいえる塔時計は、日本で現在稼働しているもののなかでは2番目に古く、5日に一度、手動で分銅を巻き上げることで時を刻み続けています。現在は、貴重な文化財として建物の保存・公開のほか、郷土についての常設展示コーナーを設けています。さらにはギャラリー、会議室、ホールの貸出を行うなど、多目的な文化施設として県民へ文化活動の場を提供しています。

旧県会議事堂(議場ホール)について

旧県会議事堂は煉瓦造2階建てで、当初から公会堂として広く市民にも利用できるよう建設されたため、議員席も固定席ではなく、県議会がない時は演奏会や講演会などに使用されていました。1986(昭和61)年からの保存復原工事では、かまぼこ型のヴォールト天井や左右の列柱、リノリウムの床、壁紙などが復原され、往時の華やかな雰囲気が蘇りました。現在では、県の公式行事やコンサート、結婚式など様々な場面で県民の皆様に親しまれています。

- 1877(明治10)年
山形県庁舎が完成
- 1883(明治16)年
山形県会議事堂が完成
- 1911(明治44)年
山形市北大火により両棟が焼失
- 1916(大正5)年
両棟が同地に再建(のちの「文翔館」)
- 1984(昭和59)年
国の重要文化財に指定
- 1986(昭和61)年
保存復原工事が開始
- 1995(平成7)年
山形県郷土館(愛称「文翔館」)として開館
- 2016(平成28)年
創建100周年を迎える



～ご来場に際しご注意とお願い～

- 館内での飲食、敷地内での喫煙はご遠慮ください。
- 床材保護のため、傷が付きやすいお履物(ピンヒールやスパイク、下駄など)での入場はご遠慮ください。また、傘など床が濡れてしまう物のお持込はご遠慮ください。
- 床が平面のため、お席によっては舞台が見づらい場合がございます。何卒ご了承ください。
- ロビーやホワイエのような待合スペースがないため、開場時間までは旧県会議事堂(議場ホール)内への入館をお断りいたします。外には雨風を凌げる場所がございませんので、十分な防寒・暑さ対策のうえご来館ください。開館時間(9:00～16:30)中は旧県庁舎内をご見学いただけます。

■アクセス

山形駅よりベニちゃんバス中心市街地行き市役所南口下車徒歩5分
駐車場は文翔館の北側にございます。(無料・約40台)

※満車の場合は近隣の有料駐車場をご利用ください。
(割引サービスはございません。)

山形県郷土館



〒990-0047 山形県山形市旅籠町3丁目4番51号
指定管理者:公益財団法人山形県生涯学習文化財団
TEL 023-635-5500 FAX 023-635-5501
URL <https://www.gakushubunka.jp/bunsyokan/>

